

校長室より

第77号

「天空高き」



平成27年11月16日

## ケータイ教室—想像力を働かせる—

PTA 主催の保護者対象「ケータイ教室」が、参観日の10日に開催されました。講師はKDDI 株式会社中国総支社長の坂口達司氏に依頼されました。

ツイッターにうっかり悪ふざけで撮った写真をアップしたことで情報が拡散して、一生の傷を残した例。無料通話アプリの既読スルーでグループ外しが行われて友人関係がこじれて学校に行けなくなった例。インターネット上（SNS）に個人情報を書いたために危険な目に遭った例。いくつもの例をあげながら、何が悪かったのか、どうしていけばよいのかをお話ししていただきました。また、「インターネット依存症」（ゲームで中毒になった例やブルーライトによる目の病気や不眠症になる例）、「ながらスマホの危険性」、「どこでも充電は犯罪である」ということにも触れていただきました。さらに、家族全員が守るケータイ・スマホのルールづくりの提案（食事の時は電源を切る、他人に自分や友達の個人情報を簡単に教えない、寝るときは布団の中に持ち込まないなど）がありました。



保護者の方々も熱心に耳を傾け、メモなども取っておられました。講師の方がとても熱心にわかりやすく話しされていて、大変有意義な講演でした。

最後に、長野PTA 会長がお礼の言葉を述べられました。その中で、「子供達をケータイから守るためには、我々大人がケータイについてもっとしっかり理解すること、知ることが大切である」ということを話されました。生徒の皆さんは我々大人よりも、ケータイについてはよく知っていると思いますが、使い方を間違えると大変なことになります。想像力を働かせて、ケータイの危険性を予測、予見して、ケータイを上手に利用していきましょう。

自分のことは自分で決める。みんなのことはみんなが決める。みんなで決めたことはみんなを守る。

## エキテン — やい続ける・思い続ける —

中学3年生の諸君が、11月23日の清流駅伝に向けて早朝練習に励んでいます。皆さんもご存じのように、駅伝は日本が発祥の地です。

駅伝と言えば、元日の実業団駅伝、そして2日と3日は箱根の大学駅伝がよく見られていますが、年末の全国高校駅伝や都道府県対抗女子駅伝等も、日本の風物詩として定着しています。知名度がそれほど高くないレースも加えたら、日本ではたくさんの駅伝が行われています。岩国市でも、しろへび駅伝、玖西駅伝、美和駅伝等が行われています。しかし、エキテン、タスキという言葉が今や国際

語になったとはいえ、外国で行われているとの報道はほとんど聞きません。一体なぜ、外国では駅伝が普及しないのでしょうか。

駅伝はチームレースで、1人の抜きん出た走者がいても、勝てません。チーム全員がひとり一人の力を結集して、はじめて勝利が得られる競技です。「個」よりも「和」を重視する日本人らしい発想が、欧米の個人主義に受け入れにくいのかもかもしれません。

私が駅伝で素晴らしいと思う事は、駅伝を応援する観衆の皆さんです。駅伝は冬の風物詩の一つで、とても寒い中で行われます。その寒い中を長時間立ちつくし、すべての走者に対して等しく応援しています。最後の走者が通過するまで、観衆の皆さんは決して帰りません。日本人の持つ本当の「優しさ」と「我慢強さ」を見ることができます。

この季節は、駆け足のごとく、朝晩の寒さが募ります。練習後は特に汗のケアにつとめ、チームで体調をしっかりと管理して下さい。一人でも欠けたらタスキがつながりませんから。



## 百聞は一見に如かず<sup>し</sup>……そして、続けること……

私の好きな言葉に、「百聞は一見に如かず」という諺があります。人から何度も聞くより、一度実際に自分の目で見るほうが確かであり、よくわかる、という意味です。語源は「漢書・趙充国伝」にでてくる一文とされています。

しかし、この言葉には、続きがありました。

百聞は一見に如かず

百見は一考に如かず (いくらたくさん見ても、考えなければ前に進まない)

百考は一行に如かず (どんなに考えても「行動」を起こさなければ前には進まない)

百行は一果に如かず (どんなに行動をしても、成果を残さなければ成長しない)

元々は、漢詩の故事からなっており、故事には、「百聞は一見に如かず」以降の文章については、記載されていません。後世に追記又は、伝聞されたものだと言われています。

皆さんにお伝えしたいことは、「聞くよりも見ること、見るよりも考えること、考えるよりも行動すること、行動して（継続して）成果を出すこと」ということです。「百行は一果にしかず」（どんなに行動をしても、成果を残さなければ成長しない）という一文は、私には納得できないところもありますが、続けなければ成果を出すことはできません。毎日元気な挨拶をする、食後の食器は自分で片づける。そんな身の回りのことでも続けることで、良い習慣が身につきます。「継続は力なり」です。

## 天空高き・・・！

毎日校内を巡回していると、秋晴れの日は、特に気持ちが良いです。

今まで、優に百校を超える学校を視察してきましたが、この高水学園は1、2番目ぐらいに位置する美しい学校だと思います。

第1・2校舎ともに建設されてから50年以上経過し、古くなっていますが、どの校舎のどの階からも、必ず鮮やかな緑の景色が目飛び込んで来ます。特に今日のような秋晴れの日は、青空と緑豊かな庭園と白亜の校舎のコントラストが素晴らしいです。巡回しながらも散歩しているような錯覚に陥ります。

天高く馬肥ゆる秋。勉学にスポーツに最適な季節です。この学園で、皆さんが21世を生き抜く力、確かな学力・豊かな心と健康を身に付けてもらいたいと、強く感じている今日この頃です。



## ちょっとためになる話 ーお父さん、お母さんの語源ー

60才を優に超えてもまだ知らないことがたくさんあります。だから、学び続けることが大事です。

地球上に住むすべての生物が、生きていられるのは太陽のおかげです。太古から、私達は、太陽を大切にしてきました。そこから「日の本」日本という言葉が生まれてきました。



「富士山・日の出」横山大観

この辺までは皆さんも、今までにも聞いたことがあると思います。

ところで、皆さんは、お母さん、父さん、の語源を知っていましたか。

「お母さん」は「お日身さん(おかみさん)」。日は太陽のことで、太陽の身(からだ)ということです。つまり、「お母さん」はいつも温かく見守ってくれる存在。「太陽のような人」という意味から、お母さんになったそうです。私は、時々妻のことを「うちのカミさんが…」と言いますが、これも同じ「日身さん」からきた言葉だそうです。

一方 毎日、家族のために、一生懸命に働き、家族の安全を守ってくれるお父さん。「お父さん」は「尊(とうと)い人」の「ト」が残って「ととさま」から「おとうさん」と呼ばれるようになったそうです。「お尊さん」。「お父さん」は大黒柱としてどっしり構え、家族を見守ってくれる頼りになる存在です。

日頃何気なく使っている、「お父さん」、「お母さん」には、親を敬い、感謝する気持ちが込められているんですね！あらためて日本語の素晴らしさと奥深さに感動しました。

### 母に感謝する誕生日

和歌山市立楠見中2年 上 園 佑 花

私は、「家族」について考えます。

家族のことで私は一つ疑問に思う事があります。

誰もが自分の誕生日に、親からプレゼントをもらいま

す。しかし、それは逆だと思います。

自分がここにいるのは、母が産んでくれたから……。

母のおかげで私はここにいます。だから、自分の誕生日の

日、母に私を産んでくれてありがとう」という言葉をプ

レゼントする。

そして、丈夫にそだててくれて感謝します」という言

葉を送る。

自分が生まれた日は、母が頑張ってくれた日。

自分が生まれた日は、母に感謝する日。

**二十四節気 立冬（りっとう）11月7日頃** この日から立春の前日までが、暦の上での冬です。日脚も短くなり、冬の気配も感じられるようになって、「冬立つ」ともいいます。そろそろ木枯らしが吹き出す頃です。【出典：ちょっと便利帳】